災害復旧事業によせて

平成19年度発生災
十文字橋災害復旧事業について

神奈川県松田町長
島　村　俊　介

1．はじめに

このたび全国防災機関紙「防災」の寄稿の機会を頂戴しましたことに対して、深く感謝とお礼を申し上げます。

松田町は、神奈川県西部に位置し、丹沢大山国定公園を含む37.33㎢に人口１万２千人が住む町です。

山間部が94％を占め、残り６％に東名高速道路、国道246号、255号、JR御殿場線、小田急線が交差する足柄上郡の交通の要衝の町でもあります。

松田町は今年、町制100年を迎えました。明治22年（1889：今から120年前）東海道本線が開通し松田駅が開業しました。

この松田町は富士山、大山、道了尊に行く中継点として参拝客で大いに賑わい、20年後の明治42年（1909）には松田村から松田町になりました。神奈川県で町制100年を迎えたのは大磯町と箱根町そして松田町だけです。

その後、神奈川県西部地域の足柄上郡の郡都として大いに栄え、昭和２年（1927）には小田急線が開通し新松田駅が開業しました。

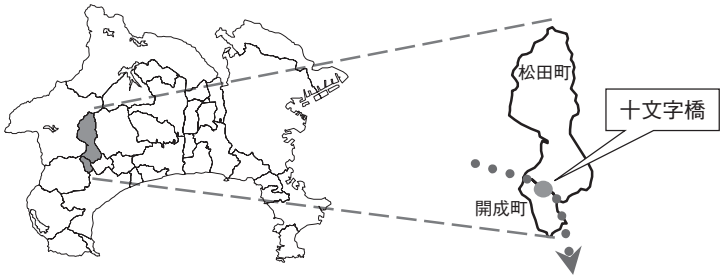
東海道本線で新橋から、小田急線では新宿から松田町に来ることができ、まさに交通の要衝として栄華をきわめました。

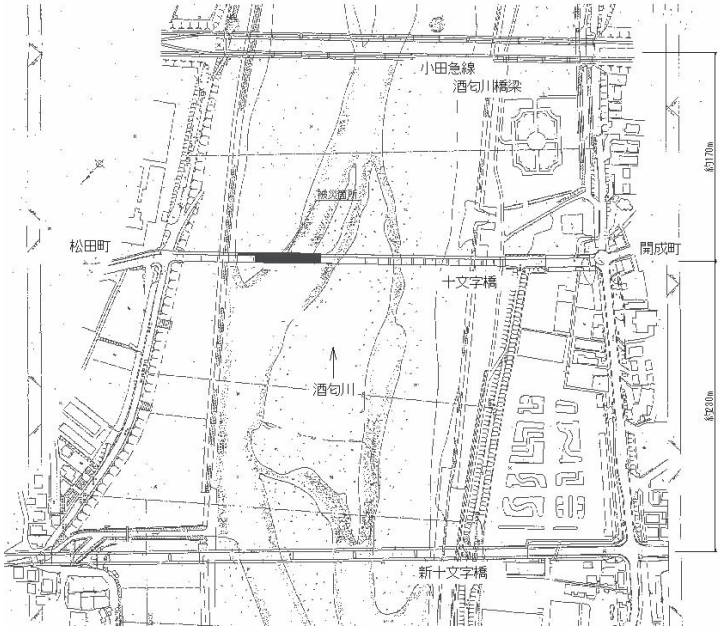
しかし、昭和９年に丹那トンネルが開通すると同時に町は一時衰退をしましたが、先人達の努力で現在まで足柄上郡の中心地としての地位を守ってきました。

13年前、みかんの荒廃地に植えた早咲き桜が大きく育ち、昨年は首都圏から33万人の花見客が訪れるようになり、特産品のみかんが付加価値をつけ売れるようになりました。今後も首都圏に近い立地条件を生かした観光や農業でさらに町おこしをしていきたいと考えております。

2．十文字橋の位置

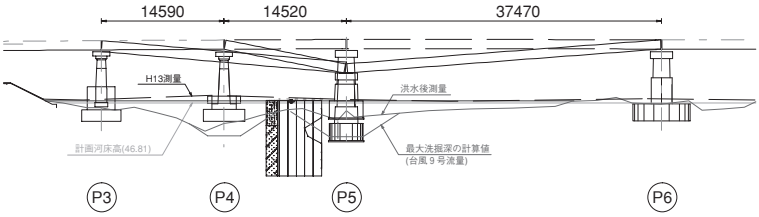
【位置図＆平面図】





3．被災断面

【P３～P６の断面図】



さて、今回この『防災』に載せていただくことになりました酒匂川「十文字橋」、この橋の120年の歴史はある程度はっきりしていますので、年代順に追ってみたいと思います。

記録には、江戸末期に伊能忠敬が土橋をつくるよう命令をしております。そのような土橋（写真－１：明治４年（1871）十文字橋よりかなり下流に位置する）で明治22年（1889）まで対応しております。

この明治22年東海道本線（現：御殿場線）が開通し、松田停車場線ができると同時に道了尊最乗寺へ行く道の橋として地元有力者の力で賃取りの木製橋ができました。これが初代十文字橋です（写真－２）。

写真－１　土橋

写真－２　初代：十文字橋

この時の様子を、松田小学校百年史では『学校の二階から酒匂川を下るイカダや菅笠の釣人が観えたり、道了尊の祭日には何十台もの人力車の列や馬車が橋を渡る風景が観え楽しみでした』との記載があります。

しかし度重なる豪雨等で何回もすぐに流され、その都度補修をしてきました。そして補修をしている間は、仮橋や渡舟で対応していました。

明治43年（1910）には50年来の大洪水にみまわれ、松田町は孤立をしてしまい松田町と関係町村の要望で、県は大正２年（1913）までに新しい十文字橋をつくることを決定しました。

そして、大正２年にいよいよ二代目十文字橋は相模の四大橋として知事式典参列のもと開通しました（写真－３）。

主な流れの中央の三本の橋脚は、石積みでできており、（今回被災したのは、このうちの一本）その他の橋脚は木製でしたので、その後も幾度となく豪雨等で橋脚は流されてしまい、大正５年（1916）木製から鉄の橋脚になりました。

大正12年（1923）石積みの橋脚以外の鉄製橋脚などは関東大地震により壊れてしまい、昭和２年（1927）の復旧により橋脚および一部の桁は鉄筋コンクリート製になり、その後は豪雨などで多少の被害を受けましたが、落ちたり流されたりしたことはありませんでした。

昭和48年（1973）県の十文字橋大改修によって桁のトラス部分がPC桁になり、完了後松田町と開成町の両町に譲渡されました（中央の石積み橋脚は大正２年のもの）。

写真－３　知事式典参列開通式

そして、平成19年９月７日、本地域を襲った台風９号の豪雨でついに大正２年につくられた石積み橋脚の一本が未明に沈下し、橋長256.5mのうち橋桁中央の一部（67m）が落ちてしまいましたが（写真－４、５）、国や県・関係者のご協力・ご尽力により平成20年12月22日、被災から15カ月の短い期間で復旧が完了し一般供用に至っております（写真－６）。

写真－４　被災状況

写真－５　被災状況

写真－６　開通式

写真－７　十文字橋落橋対策協議会

４．復旧に至るまで

～台風９号により十文字橋が被災～

平成19年９月７日神奈川県西部を通過した台風９号により、酒匂川が増水し、午前１時15分頃十文字橋の松田町側から５番目の橋脚が徐々に沈下し始めました。最終的には橋梁がＶ字型に折れ、まったく通行できない状況になりました。幸いなことに人的被害はありませんでしたが、松田町と開成町をつなぐ大事な連絡橋が使えなくなってしまいました。

～十文字橋復旧対策協議会を設置～

多くの利用者が通行できなくなった十文字橋の早期復旧を望むなか、被災同日に松田町と開成町では十文字橋落橋対策協議会（後に復旧対策協議会）を設置しました（写真－７）。

協議会では、早急に壊れた橋脚と橋桁を撤去することを決定し、また橋を人と車両が通れる状況にするには多くの時間が必要となるため、人や自転車などの通行ができる仮設橋を先に設置することも決めました。

～仮橋が先行して完成～

被災年の12月19日には仮橋が完成（写真－８）。ひとまず人と自転車の通行ができるようになり地域住民からは喜びの声も聞かれました。

写真－8　仮橋が完成

しかしながら、朝夕には被災した十文字橋を迂回するための交通渋滞もみられ、本橋の復旧を待ち望む声は相変わらず多く、橋脚の撤去作業などを急ぎ進め、年を超えた1月には新しい橋脚の建設が始まりました。

橋脚部分の掘削作業では、予想以上に固い土質のため難航することもありましたが、施工方法の見直しにより予定どおりの作業工程となりました。

～橋脚の完成～

この間、大きな降雨被害もなく8月には橋脚が完成し、橋桁工事へと進みました。雨期や台風の時期に入り増水などが懸念されていましたが、幸運にも被災年のような豪雨もなく安全に作業が行われました。

写真－9　橋脚が完成

写真－10　橋桁の架設

写真－11　竣工

～橋桁が架かる～

9月には工場で製作された橋桁が左岸堤防部で二本に組み立てられ、トランスポーター（トレーラー）で橋の近くまで運びクレーンで架設されました（写真－10）。さらに10月には歩道桁も架設され、被災から1年3カ月ぶりに十文字橋の姿が戻り、12月22日には関係者にご臨席を賜り開通式を行い被災前の交通体系に戻りました（写真－11）。

～おわりに～

最後になりますが、被災発生から早期に事業採択に向けご尽力を賜りました国土交通省、財務省をはじめ多くの関係機関。また復旧に向けて事業協力いただいた神奈川県や関係者に対し、ご指導・ご協力をいただきありがとうございました。この場をお借りしまして改めて御礼申し上げます。